

No.35号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合 〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

行政の生涯学習化

(社)全国社会教育委員連合会長

鈴木 勲

「行政の生涯学習化」という言葉が一つの時代を切り開いてくれるかもしれない。

去る六月二十九日に東京都生涯学習審議会が、「これからの社会を展望した生涯学習の総合的な振興方策について」都知事および都教育委員会に答申を行った。この答申は、東京に特性を踏まえた具体的提言が特色であるが、生涯学習ネットワークセンターの創設などユニークな内容で、社会教育関係にとっても示唆するところが多い。「行政の生涯学習化」は、その提言の一つである。

「生涯学習を総合的かつ効果的に振興していくためには、都政においてもすべての部門が生涯学習への理解を深め、その観点を取り入れるなど、行政の生涯学習化の推進を図る必要がある」と述べている。

この点は、文部省の生涯学習審議会の平成四年七月二十九日の答申の中で、最後に「行政へ」として、あらゆる行政の関係者が自ら担当する行政に

生涯学習の視点を取り入れることが必要であると、個人の心構えとして述べているが、これを行政体制全体の課題としてとらえ、「行政の生涯学習化」として提言の冒頭に掲げたところに、新鮮さがある。

昭和五十年代に、「行政の文化化」という言葉が地方行政関係者の間で大いに流行した。遅れた文化行政に対する意識改革を含めて、行政に文化の視点を取り入れることによって、行政の活性化を図ろうとする、いわば戦力的用語であったが、これによって、地方自治体の文化行政が全国的な広がりをみせて推進されたことは事実である。「行政の生涯学習化」も、これからの地方における生涯学習振興策を進める上で、有力な刺激になることを期待している。

この前の全国社会教育委員連合の理事会で、理事の一人から、最近の地方の実情は、社会教育というだけでは、なかなか財政当局が予算をつけてくれないという話があった。

生涯学習という言葉が、まだ地方の行政担当者の間では未消化で、意識改革が必要なことを如実に示している。生涯学習体系の中で社会教育が重要な役割をもつことの認識が欠落しているといってもよいが、この問題は、当の社会教育関係者の間でもまだ十分に概念整理ができていないというところにも原因がある。

概念整理というよりも、社会教育を生涯学習という視点で見直し、時代の変化や要請にいかに対応していくかという積極的な態度が、今社会教育関係者に求められるといってもよいのではなからうか。

社会教育は、社会教育関係施設で展開される事業が中心であるが、この施設をもっているという利点が最大の強味である。

この施設が、生涯学習という時代の要請に見合う事業を十分に展開しているかどうか。施設の運営が地域住民の自主的な参加意欲を充足させているかどうか。必要な学習情報が広く流通するシステムになっていくかどうか。学習プログラムが不断に更新されていくかどうか。生涯学習の観点から点検すべき項目は数多くある。都内のある社会教育施設では、母親の育児学級を開設し、そのための保育室をボランティアの援助で設けているという例をきいた。「行政の生涯学習化」を社会教育の分野からまず徹底してほしいものだと思う。

第36回全国社会教育研究大会をめざして

現在岩手県においては、来る10月4日より3日間にわたり開催される第36回全国社会教育研究大会の開催をめざして、その準備に大変意欲的に取り組み着々と進めているところです。

この大会も、昭和34年に東京で第一回が開催されて以来発展を続け、大会関係者も、全国からご参加いただく社会教育関係の皆様に、参加してよかつたと心から喜んでいただける大会となるよう懸命な努力を続けております。

昨年佐賀県において開催されました全国大会最終日には、次期開催県代表として水本光夫岩手県会長が次のような挨拶をされています。

岩手県では、二十数年前から「教育振興運動」という岩手県独自の教育運動がございまして、青少年の健全育成をめざし、それぞれの地域で総意・工夫を凝らしながら、運動が展開されてまいりまして、この機会に全国の皆様方からご指導をいただくことを大変光榮に思っている次第でございます。

岩手県は今、NHK大河ドラマ「炎立つ」で大変燃えております。「田舎なれども南部の国は、西も東も金の山」これは、岩手県の代表的な民謡「南部牛追い唄」の一節でございます。「南部の昔、陸奥の大地に理想の楽土

建設を目指しまして、黄金文化の花を咲かせました藤原四代の古都平泉は、マルコポーロが日本を紹介する時には「黄金の国ジバング」とお話ししたわけでございますが、まさに黄金の理想郷でございます。現在に残る金色堂は、その面影を残しております。今「炎立つ」ブームに沸いております。

会場地であります盛岡市は、盛岡城址を中心にして、一緑と水の都でございます。ぎぼしのある橋が街並みに良く調和いたしました。昔から陸奥の京都と言われてまいりました。すばらしい景観と歴史を大事にした都市づくりで、数々の賞をいただいております。

東北新幹線ターミナル駅、盛岡駅に立ちますと「故郷の山に向かい言うこと無し、故郷の山は有り難きかな」そういう歌が刻み込まれた巨大な歌碑が、皆様方をお迎えしてくれるはずでございます。盛岡の西は小岩井農場。そして国立十和田八幡平につながっております。北へまいりますと、すぐに石川啄木の故郷、洪谷。東にまいりますと民話の故郷遠野。そこを経て、男性的な海岸美を誇る陸中海岸がございます。南へまいりますと宮澤賢治のイーハトーヴの里花巻。そして、「炎

立つ」のロケ地でございます江差藤原の里を経て平泉へつながります。

岩手県には、この他にも二つの国定公園もございまして、全県まさに詩情豊かな岩手路でございます。温泉もたくさんございます。名物碗子そばに挑戦していただければ大変面白味もあろうかとおもいます。また、五人の総理大臣をはじめ、ご存じの新渡戸稲造など各分野に多くの人材を輩出していることで知られる岩手県では、県内各地にそうした人物を紹介する記念館が沢山ございます。記念館を訪れてもらいまして、岩手県の精神・風土をご理解頂ければ有り難いと思っております。

皆様方、ぜひ来年はお越しください。目で確かめて頂きたいと思っております。次に、大会開催要綱を要約します。

◆研究主題
「生涯学習社会の形成をめざす社会教育のあり方を考える」……生きがいの発見と創造をもとめて……

◆期日・会場
10月4日(火)～6日(木) 3日間
岩手県民会館ほか

◆大会日程
「第一日」開会行事 13時～14時
・主催者挨拶 ・表彰式典
・祝辞 文部大臣 岩手県知事

・歓迎の言葉 盛岡市長
シンポジウム 14時～15時30分
「豊かで活力ある社会と
学習ボランティア」

「第二日」10時～15時
部会別研究協議 10部会で構成

「第三日」10時～12時
記念講演 10時～11時30分
「現代に生きる新渡戸稲造」
大阪市立大学名誉教授 佐藤 全弘

◆部会名と研究主題 ①社会教育行政
Ⅱ生涯学習の基盤整備をめざす社会教育行政の役割を考える②施設の整備と活用Ⅲ生涯学習時代にふさわしい社会教育施設の整備と運営のあり方を考える③家庭教育Ⅳ望ましい家庭像と家庭教育のあり方を考える④青少年教育Ⅴ地域ぐるみの青少年健全育成を図る方策を考える⑤高齢者教育Ⅵ高齢者の生きがいと社会参加を促進するための社会教育の役割を考える⑦国際理解と開発教育Ⅷ国際化の進展の中で、相互理解と開発への関心を高める方策を考える⑧同和教育・人権教育Ⅸ人権尊重と差別のない明るい地域づくりをめざす社会教育活動を考える⑩学習情報・学習相談Ⅺ学習活動を支援する情報提供、相談体制のあり方を考える⑫地域づくりと社会教育Ⅼ地域の特性を活かした魅力ある地域づくりの活動の方策を考える⑭文化、スポーツ・レクリエーション活動Ⅾ心の豊かさを求める文化活動の充実と生涯スポーツ・レクリエーションの振興を考える

地区研究大会の紹介

の創造をめざして

平成6年度全国大会は前頁の通り、岩手県におきまして着々と準備が進められていますが、一方各地区（ブロック）別の社会教育研究大会も、それぞれの開催において既に開催されたところ、開催にむけて準備が進められていくところ、をご紹介します。

各地区大会とも年々参加者が増加の傾向にあり、内容も充実してきてます。このことは開催県のきめ細かな運営・配慮等もありますが、生涯学習推進の機運が参加者の大会参加を盛り上げていくと考えられます。

社会教育委員の皆様が大会に参加され、他の市町村における社会教育委員の活動を、知るこの意義を十分に理解する機会でもありますので、ぜひとも多くの社会教育委員、社会教育関係者のご参加をお願いいたします。

北海道地区研究大会—滝川市

期日 10月13日（木）～14日（金）

会場 滝川市文化センター

研究主題 「地域の特性を生かし、ともに学び、ともに生きる社会

部会の構成

- 第一部会 生涯学習
- 第二部会 青少年教育
- 第三部会 成人教育
- 第四部会 高齢者教育
- 第五部会 スポーツ活動
- 第六部会 文化活動

関東甲信越静地区研究大会—群馬県

期日 9月8日（木）～9日（金）

会場 群馬県 水上町観光会館

研究主題 「生涯学習社会の実現に向けた社会教育の充実・振興」

分科会の構成

- 第一分科会 生涯学習推進体制
- 第二分科会 学習機会
- 第三分科会 生涯学習施設
- 第四分科会 家庭教育
- 第五分科会 青少年教育
- 第六分科会 高齢者教育

基調講演 「生涯学習社会の実現に向けた社会教育の充実・振興」
東京家政大学教授 伊藤俊夫
記念講演

東海北陸地区研究大会—富山県

期日 10月7日（金）～8日（土）

会場 富山県民会館

研究主題 「生涯学習社会における地域に根ざした社会教育の在り方を考える」

各県・市研究発表、質疑、指導講話

- 提案者 名古屋市長 石川 啓
- 福井県 岐卓 隆
- 三重県 愛知 隆
- 富山県

司会、講師 金沢大学教授 佐伯 信男

全国学習フェスティバル（生涯学習見本市等）参加

近畿地区研究大会—兵庫県

期日 6月21日（火）～22日（水）

会場 兵庫県 城崎大会議館

研究主題 「生涯学習社会をめざした家庭づくり・地域づくり」

基調講演 「家族という集団を作るサ

ル」

講師 京都大学名誉教授 河合 雅雄

シンポジウム

「生涯学習と魅力ある町づくり」

コーディネーター

- 九州女子大学教授 福留 強
- シンポジスト
- 香川県志度町町長 櫻村 正員
- 滋賀県立図書館長 澤田 正春
- 兵庫県立女性センター所長 清原 桂子

大但馬展見学

中国・四国地区研究大会—島根県

期日 5月26日（木）～27日（金）

会場 島根県 島根県民会館

研究主題 「生涯学習社会の実現をめざした社会教育のあり方」

分科会の構成

- 第一分科会 青少年教育
- 第二分科会 成人教育
- 第三分科会 社会体育
- 第四分科会 同和教育

記念講演 「古代の出雲」
講師 島根県立女子短期大学教授 藤岡 大拙

シンポジウム

「生涯学習の実現をめざした社会教育のあり方」

九州地区研究大会—長崎県

期日 9月8日（木）～9日（金）

会場 長崎県 長崎市公会堂

研究主題 「生涯学習まちづくりと社会教育委員のあり方」

分科会の構成

- 第一分科会 生涯学習の推進体制
- 第二分科会 学習機会及び学習情報の提供
- 第三分科会 生涯学習まちづくりとボランティア活動
- 第四分科会 青少年の健全育成
- 第五分科会 同和教育の推進
- 第六分科会 社会教育関係団体の育成

記念講演 長崎市文化国際課嘱託
ブライアン・パークガフニ

北から南から

「豊かな心」

村田 志朗

従来の社会教育という視点から、各人が自発的な意志に基づいて学ぶ生涯学習への転換が図られているようである。青森県においても社会教育課が生涯学習課へと名称が変更されており、いよいよ生涯学習が社会のニーズであることがはっきりしてきました。

生涯学習とは何か、行政サイドからは学習機会の創出と提供によって、いわゆる「いつでも」「どこでも」「誰でも」が学べる体制をつくる必要があるといえます。また、住民にとつての生涯学習とは、どのように理解したらよいのでしょうか。私はそれについては、「豊かな心を持つ為の自己研鑽であり、豊かな心を持つての自己完結」であると考えています。

それでは豊かな心とは何か。まず自らが幸せであるという満足感、充実感を持つことがポイントでありましょう。この満足感、充実感は学習で得られるものや人間関係で得られるものなど多種多様であると思いますが、お陰様という感謝の心、優しく思いやりのある心、あなたの為に尽くす奉仕の心などが一体となっているのが豊かな心であらうかと思えます。

人間は本来、自己中心主義的なところがあり、自分が良ければ他はどうでもよいという本能的なものを持っている訳ですが、この欲望をコントロールするのが学習、即ち自己研鑽であろうと思います。この自己研鑽で得られた成果を、学術・文化・伝統の各分野に継承していく事が望ましいと思います。知識だけでは自己満足だけで、それだけの価値よりありませんが、この知識に思考と経験とをプラスしますと知恵に生まれ変わります。この知恵を伝えていくことが、社会を豊かにする根源ではないかと思うのです。

現代社会は、コンピュータに象徴されるように心の乾いた時代のように思えてなりません。また、人それぞれの価値観で行動し暮らしていくことは、豊かな暮らしとはいえないと思います。何かしらしつとりした人間の情感を持った生き方が、理想であろうと思います。豊かな暮らしとは豊かな心がベースになってこそ初めていえるのではないのでしょうか。

人生には、好むと好まざるとに拘らず終焉が訪れるのです。この時に自分の生涯が心豊かなものであったとしてみみ思えること、このことが豊かな心を持つての自己完結であります。

世のため人のために尽くす奉仕の心は他の人の幸せに役立つことであると共に、本当は自分の満足感、充実感になっていくのではないのでしょうか。私にとつての生涯学習とは、「豊かな心を持つて為の自己研鑽であり豊かな心を持つて自己完結」したいものです。(青森県社会教育委員連絡協議会長)

な心を持つて為の自己研鑽であり豊かな心を持つて自己完結」したいものです。(青森県社会教育委員連絡協議会長)

共感より行動へ

志賀 清己

一昨年七月、県社会教育委員を委嘱され、全国社会教育研究大会に二回参加する機会を得た。

千葉で行われた平成四年度の大会では、千葉県袖ヶ浦市の発表に共感を覚えた。江戸末期の儒学者佐藤一斎の「言志四録」より命名された「市民三学大学講座」を中心とした協調とやすらぎのあるまちづくり、市長を中心とした総合的かつ体系的なまちづくりの推進、その学習内容の豊かさに社会教育の先駆者的なイメージをいただいた。そしてあらゆることに共通ではあるが、リーダーの資質と熱意が社会教育の場でも必要であることを再確認した。

又平成五年度佐賀で行われた大会でも、福岡県筑穂町の発表は、これからの社会教育施設建設の視点を与えてくれるものであった。地域内施設のネットワーク化を図り、又既存施設の有効利用を図ることは全国いづれの場所でも必要不可欠なことであり、微細なことへの配慮など前向きな示唆を与えてくれるものであった。

問題は、その次の段階にある。

大会での共感が往々にして一過性のものになることを恐れている。「共感より行動へ」の重要性が忘れられているのではなからうか。ある一部の人が立派な発表を聞き、すばらしい成果をあげている全国各地の実体を聞くことで終っている気がしてならない。

それぞれ地域による相違、特殊性があり、そのままモデルどおりに受け入れられることはできないが、参考になることは多いのではなからうか。生涯学習データバンクへの入力、学習情報としてその骨子の配布、あるいは関係職員の研修資料とするなど、一地域で打ち上げられたすばらしい「火花」は点から線へ、線から面へ、さらに立体化されてはじめて底面の全面的な底上げにつながるものと思う。さらにもう一つつけ加えるならば言い古されている「学社連携」にも活用されるべきであらう。

学校教育と社会教育の連携の必要性・重要性は言をまたないが、特に教職員に対する社会教育への認識はまだまだ浅いと指摘されている。その一因に「共感」を与える場が少ないことであらう。

佐賀大会のパネルディスカッションでパネラーの一人が述べた「竹藪社会教育」(上ばかりさわついでいて、下の方は全然動かない。)にならないように「行動」を起こしたいものだと考えている。

(大分県社会教育委員連絡協議会長)

うぐいす運動の推進

林 繁夫

平成三年九月、第四十六回国民体育大会が石川県で開催された折、松任市は夏季大会水泳競技の主会場として秋篠宮殿下のご臨席を仰ぎ、十月には秋季大会フエンスシング競技会場に、更には同月第二十七回全国身体障害者スポーツ大会水泳競技会場として皇太子殿下のご臨席を仰いで成功裡に大会を終了し、県民、市民あげてその感激にひたつた所であります。

国体を終えて、私たちスポーツ関係者の中で先ず考えた事は、国体によって盛り上った市民のスポーツに対する情熱と貴重な体験と成果を、今後どのようにに生かしてゆくべきかという事でした。こうして国体後のスポーツの在り方を模索する中で、全市民がスポーツ活動を日常生活の中に位置づけ、生涯にわたってスポーツに親しむよう生涯スポーツの推進という事を大きく取り上げたのであります。

この事をふまえて私たちは「うぐいす運動」なるものを提唱致しました。本市のシンボル鳥は鶯であります。この鶯にちなんで

- ① うぐいす、へたは抜きにして、
- ② うぐいす、へたは抜きにして、
- ③ うぐいす、へたは抜きにして、
- ④ うぐいす、へたは抜きにして、
- ⑤ うぐいす、へたは抜きにして、
- ⑥ うぐいす、へたは抜きにして、
- ⑦ うぐいす、へたは抜きにして、
- ⑧ うぐいす、へたは抜きにして、
- ⑨ うぐいす、へたは抜きにして、
- ⑩ うぐいす、へたは抜きにして、

(石川県社会教育委員連絡協議会理事)

をキャッチフレーズに、市民に生涯スポーツの大切さを訴え、スポーツ活動、特にニュースポーツの普及推進につとめたのであります。

幸いにして本市では、市長はじめ関係各位の極めて深いご理解とご尽力を戴いて、総合運動公園の建設と併せて陸上競技場、水泳プール、体育館、武道館等スポーツ施設は全国にも誇り得るすばらしいものに整備され、広く市民、県民に活用されている所であります。また市内十五地区(校下)には、生涯学習の拠点となる公民館に付設して軽体育館も建設され、高齢者の健康クラブをはじめ各種団体のスポーツ活動も極めて活発に展開されており、スポーツを通して自からの健康づくりとお互いの交流の輪の広がる中において、日々そこに生き甲斐を見出し活動している姿はまことにほほえましく、喜ばしい限りであります。近年運動公園の芝生の上で家族ぐるみでスポーツに親しむ姿も見られるようになりまして、今私どもが最も必要且つ実践を望む若壮年層(会社等の中堅幹部クラス)のスポーツに対する理解と関心の低い事に鑑み、この年齢層に対しどのようにPRし取り組むべきか、生涯スポーツの推進と、スポーツの生活化をはかる上で「うぐいす運動」を更に強力にすすめたいと願う昨今であります。

マルチメディア時代の成人学習

安原 昇

生涯学習は、生活主体である学習者の立場から、学習と人生、学習と生活との人格的統合を目指す一つの教育観である。

生涯にわたる学習活動は、学習の内容や方法を、学習者と学習機会提供者のどちらが主に決定するかによって、四類型に区分される。①学校、学級・講座・セミナーなどの定型的学習、②施設、集会・行事・イベントなどの未定型的学習、③遠隔教育、通信教育・放送利用学習などの非定型的学習、④在宅学習、読書・ニューメディア利用などによる自己主導的学習。

我が国の現状は、①②の教え手中心の学習活動が多く、③④の学び手中心の活動では、地域格差が大きい。

知識情報伝達中心の学習展開がなお多いのは、情報の偏在と学び手・教え手を媒介する学習メディアに依存することが多いためであろう。今の成人世代は、印刷メディアを主体とする時代に育ち、その後発達した放送を中心とする映像メディアに適応しながら学習し、暮らしてきた。その結果、多用しがちなのは印刷教材のコピーとビデオ教材の活用などである。

しかし、この十年ほどの間に、情報メディアの出入口としてのパソコンが

急速に発達し、それへの生活的対応を迫られている。これからは放送と通信が融合するマルチメディア時代がいつそう加速すると言われる。「文字、データ、音声、映像などの異なる情報を統合して扱う情報システム」のエンターゼーである私たちにとって、パソコンは近未来の文化生活を享受するための必需品となってくる。

最近のパソコンは、大変賢くなり、キーボード入力からマウス操作へと使いやすくなつてはきたが、生活用品、学習用具としてはなお高価である。それにしても、職場や学校にこれだけ普及しているのに、学習の場や家庭ではワープロソフトの活用は終始している。それは、活字再生機としての手段的パソコン観が強いためと思われる。しかし、CD-ROMなど大容量記憶媒体を付加するこれからのパソコンは、情報管理のツールとしての役割にとどまらず、人間の頭脳を補完し、パソコン操作自体が新しい時間的・空間的価値の創出と生きがいを生み出す統合メディアとしての機能を果たしていくことになるだろう。

「パソコンを学ぶ」成人学習は、受容的な学習から脱却し、時代の先端を行く若い世代とのネットワーク型学習の好機となろう。私はこのような発想のもとに、大学の授業や成人向け大学公開講座でのパソコン活用を試みているが、おおむね好評である。

(香川県社会教育委員連絡協議会長)

基本金増強募金事業（平成4年・5年度）都道府県・指定都市別納入率状況一覧

平成6年6月30日現在

都道府県都市	納入率 %	都道府県都市	納入率 %	都道府県都市	納入率 %
北海道	96.6	岐阜県	78.9	佐賀県	0.0
青森県	97.4	静岡県	32.7	長崎県	72.6
岩手県	34.9	愛知県	62.1	熊本県	91.9
宮城県	68.5	三重県	100.0	大分県	86.4
秋田県	100.0	滋賀県	34.9	宮崎県	100.0
山形県	0.0	京都府	100.0	鹿児島県	24.5
福島県	80.8	大阪府	58.1	沖縄県	101.0
茨城県	19.6	兵庫県	100.0	札幌市	100.0
栃木県	78.1	奈良県	96.6	川崎市	101.0
群馬県	35.4	和歌山県	100.0	横浜市	0.0
埼玉県	81.3	鳥取県	97.5	名古屋市	100.0
千葉県	59.3	島根県	70.7	京都市	100.0
東京都区	14.1	岡山県	79.8	大阪市	0.0
神奈川県	100.8	広島県	89.1	神戸市	0.0
新潟県	0.0	山口県	83.5	北九州市	0.0
富山県	0.0	徳島県	0.0	福岡市	0.0
石川県	100.0	香川県	68.5	広島市	0.0
福井県	0.0	愛媛県	100.0	仙台市	0.0
山梨県	93.0	高知県	56.9	千葉市	100.0
長野県	46.6	福岡県	60.2	東京市町村	93.3

平均 64.1%

基本金増強募金事業（平成4年・5年度）の納入状況について

本会の事業推進に当たり格別のご支援を賜り、有り難うございます。前号（第三十四号）におきまして、「基本金増強募金の納入状況について」の現状をお知らせし、納入のご協力を願っているところでございます。平成六年度第一回総会におきまして

も、未納の団体については九月末までに目標額を達成するよう、文書にて協力をお願いを出すようにとの意見が出されております。参考迄に納入率状況一覧表を掲載いたしました。未納の団体におかれましては、この状況をご勘案の上ご理解を

【募金の概要】
一、募金額 六、三〇〇万円
当法人の基本金を最低一億円とする。なお現在までの募金の総額は、三、七〇〇万円である。

一、募金期間 平成四年度、五年度の二カ年とする。
一、募金対象 都道府県・指定都市の社会教育委員連絡協議会に平成四年度、及び五年度在任中の社会教育委員に対し、任期中一回限り寄付をお願いする。

第20回 ヨーロッパ社会教育視察団参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員等のためにヨーロッパ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、実施して参りました。本年記念すべき第20回を迎える特別企画としてソルボンヌ大学ピット教授の講演や200年の歴史をもつパリ市内の成人学校訪問などを予定して、下記の内容で第20回ヨーロッパ社会教育視察団の団員募集を開始致しますので、またとない機会にご参加をお勧め致します。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡、博物館・美術館を巡り教育文化環境を学ぶ。
2. 期間 平成6年10月12日(水)～10月22日(土) <11日間>
3. 旅程 東京→ウィーン(3泊)→ブダペスト(1泊)→ロンドン(2泊)→パリ(3泊)→東京
4. 主要視察先 ①ウィーン＝成人教育協会、国民高等学校、美術史博物館、国立オペラ座、シュテファン寺院、王宮、シェンブルン宮殿、市庁舎、ドナウ河
②ブダペスト＝国会議事堂、英雄広場、マーチャーン教会、漁夫の砦
③ロンドン＝成人教育協会、カムデン成人学校、大英博物館、ロンドン塔、国会議事堂、セントポール寺院、バッキンガム宮殿
④パリ＝ソルボンヌ大学、パリ市成人学校、ルーブル博物館、ノートルダム寺院、凱旋門、オペラ座、ボンビドー文化センター
⑤その他＝ロンドン～パリ間ユーロトンネル列車移動
5. 参加終費 476,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内致します。)
※社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金があります。
※全食事を加えた場合72,000円の追加経費でご手配致します。(概算)
6. 募集人員 20名(先着順、定員になり次第締切)
7. 募集締切 9月12日(月) 9月下旬旅行説明会開催
8. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連合へお申し込み下さい。なおご請求下されば詳細資料等お送り致します。
9. 旅行業務 旅行に関する一切の業務は、近畿日本ツーリスト(株)の門海外旅行支店が担当します。
10. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内
社全国社会教育委員連合 TEL.03-3580-0608 FAX.03-3580-2869

＝第2回東南アジア社会教育視察・交流団のご案内＝

本会は昭和50年度より毎年欧州社会教育事情視察団を編成し、わが国の社会教育推進に努力してまいりました。昨年のタイ・シンガポールへの視察団に引き続き「第2回東南アジア社会教育視察団」を編成し、現地事情の視察交流により、わが国だけでなくアセアンの一員として広く社会教育の推進の一助にと考えております。是非この機会にご参加をおすすめいたします。

1. 期間 平成6年11月29日(火)～12月3日(土) 5日間
2. 日程 東京→マカオ(2泊)→香港(2泊)→東京
3. 主要視察先 (1)マカオ成人教育協会及び社会教育施設見学
(2)香港成人教育協会及び社会教育施設見学、香港市内視察、ビクトリアピーク、レパレスベイ、スタンレー、九龍地区等
4. 経費 146,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内いたします。)
5. 募集人員 15名 〆切 10月28日(土)
6. 応募方法 はがきにて(社)全国社会教育委員連合へお申し込み願います。なお詳細なことを知りたい方はご連絡下さい。詳細資料を委員宛お送りいたします。
7. 旅行業務 旅行に関する一切の業務に近畿日本ツーリスト(株)の門海外旅行支店が担当します。
8. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内

(社)全国社会教育委員連合 TEL (03) 3580-0608
FAX (03) 3580-2869

事務局だより

▼平成6年度第一回総会終わる

平成6年度第一回総会・理事会を開催、平成5年度事業報告・収支報告・会計監査、平成6年度事業計画・収支予算その他について協議が行われました。

日時 平成6年5月17日(火)

理事会 10時30分～12時

総会 13時～14時30分

会場 ホテルフロラシオン 青山

総会は定刻に司会者より開会を宣し本総会は定款第26条により定足数(正会員数60名中出席者59名)を満たし成立する旨を告げ、まず鈴木勲会長の挨拶、小杉山清専務理事より経過報告を行い、次に議長に金子安平氏を選出し、議事録署名人として玉田義美氏、竹下哲氏が指名され議事の審議に入りました。

第1号議案「平成5年度事業報告ならびに収支決算の承認について」は、石浦事務局次長と田辺事務局次長が報告。第2号議案「会計監査報告の承認について」は監事の栃木県秋山一夫会長より監査報告があり、いずれも承認されました。

第3号議案「平成6年度事業計画(案)ならびに収支予算(案)」は、石浦事務局次長と田辺事務局次長が提案し若干の質疑応答の後、原案どおり承認されました。

第4号議案「第36回全国社会教育研究大会開催要綱(案)」については、水本岩手県会長より、開催要綱について詳細な説明がなされ、各県への参加協力が要請され承認されました。

第5号議案「第37回(平成7年度)全国大会開催県について」は和歌山県において開催する旨発表があり、承認されました。

第6号議案「寄附金について」は、石浦事務局次長より「納入状況一覧表」について説明したところ、次の意見が出されました。

納入率100%の団体もあれば、0%の団体もある。納入促進方法としてどんな手法をとるのか。また、協力依頼について文書で出して欲しい。これに対して小杉山専務理事より納入促進については文書にて目標額達成の努力をお願いを出し、平成6年9月迄に納入を依頼する。また、第2回総会(10月)で最終報告を提示する予定である。

旨を回答し、了承されました。

寄附金納入状況については、6頁を参照してください。

▼県・市の社教連会長に就任

- | | |
|-------|-------|
| 神奈川県 | 野垣 義行 |
| 山梨県 | 小林 善英 |
| 川崎市 | 高橋 和子 |
| 名古屋市長 | 江藤 恭二 |
| 仙台市長 | 近藤 義忠 |

社教情報

31号 [A5判 64頁] 定価 300円(税込) ¥190円 平成6年9月下旬発行予定

全国でご活躍の社会教育委員を結ぶ唯一の機関紙であります「社教情報」第31号を発行いたします。年2回の発行ですが、好評で全国各地の社会教育委員の研修の糧として、是非ご購読下さいませようおすすめいたします。主な内容は下記のとおりです。

特集「学校教育と生涯学習」

- | | | | |
|-------|------------------|---------------|---------------------|
| ◆論文 | 上越教育大学教授 新井 郁男 | ◆解説 | 東京都教育庁主任社会教育主事 西宮 嗣 |
| ◆誌上講座 | 埼玉県立浦和図書館長 村田 文生 | | |
| ◆事例 | 神奈川県茅ヶ崎市教育委員会 | 群馬県太田市立鳥之郷小学校 | 石川県金沢市教育委員会 |
| | 鹿児島県鹿児島市立草牟田小学校 | ◆施設紹介 | 岐阜県各務原市西生涯学習センター |
| ◆随想 | | ◆視察報告 | 欧州社会教育視察団 堀江澄男(厚木市) |
| ◆レポート | 北海道滝川市、長崎県口之津町 | ◆思考と提言 | |
- 編集/社団法人 全国社会教育委員連合 発行/財団法人 全日本社会教育連合会

新刊案内

入門・生涯学習政策

岡本 薫 著 定価800円(税込)

この冊子は、生涯学習施策に関する「入門書」として、「生涯学習」の意味、「生涯学習社会」を目指す理由、行政の役割についての基本的な考え方などに関し、最も基本的な事項のみに絞って、検討・解説を行ったものである。

地方公共団体等の管理職や職員、教育委員・生涯学習審議会委員・社会教育委員など各種委員会等の委員、社会教育主事・公民館主事などの専門的職員、学校の教員や社会教育指導者など、地方公共団体等において、生涯学習施策の企画立案・実施等に直接・間接に携わっておられる方々を主な対象としたものである。

<序文より>

発行 (財)全日本社会教育連合会 〒100東京都千代田区霞が関3-2-3(国立教育会館内) ☎03-3580-0608